

空き家相談窓口等を活用した居住支援システム構築と相談員の育成事業(NPO法人空き家コンシェルジュ)

課題	空き家相談窓口には住宅確保要配慮者からの利用相談があり、独自に対応しているのが現状。これまでも相談員育成を実施してきたが、空き家を活用した居住支援に関しては確立されたものはなく、人材の育成や問題課題の整理、仕組みづくりが必要。
目的	住宅確保要配慮者の相談は多岐にわたり、問題点の整理・課題抽出、各専門分野や地方自治体との連携、支援制度の活用、根本的に空き家を活用する仕組み作りが急務と考え、問題解決に取り組んだ。
取組内容	①居住支援を実施する上で身に付けておくべき知識や制度などの研修の実施 ②空き家相談窓口相談員に必要な居住支援に関するガイドブックの作成 ③住宅確保要配慮者の状況把握・地域福祉事業者の実態調査や意向調査・地域不動産事業者の意向調査 ④奈良県居住支援協議会や専門団体と連携した空き家を活用した仕組みの検討会の開催 ⑤常設相談窓口における住宅確保要配慮者案件の相談事例の収集 ⑥現状対応の問題・課題整理
成果	①空き家相談窓口相談員の居住支援に関する知識向上 ②空き家相談窓口相談員に必要な居住支援に関するガイドブックの作成 ③住宅確保要配慮者・地域福祉事業者・地域不動産事業者の状況把握 ④常設相談窓口における住宅確保要配慮者案件の相談事例の収集～居住支援に関する対応の問題・課題整理

取組内容

- **居住支援を実施する上で身に付けておくべき知識や制度などの研修の実施**
 空き家相談員が居住支援を必要とする相談者に対して相談対応できるようにするための基礎的な内容の研修を実施。
- **空き家相談窓口相談員に必要な居住支援に関するガイドブックの作成**
- **住宅確保要配慮者の状況把握・地域福祉事業者の実態調査や意向調査・地域不動産事業者の意向調査**
 住宅確保要配慮者の状況把握・地域福祉事業者の実態・地域不動産事業者の意向をアンケートやヒアリング等で集約し、現状の把握から問題課題整理を実施した。
- **奈良県居住支援協議会や専門団体と連携した空き家を活用した仕組みの検討会の開催**
 地域における現状把握と共に、空き家の活用を基本に現状把握を実施した上で奈良県や居住支援協議会などと連携し仕組みの検討を実施した
- **常設相談窓口における住宅確保要配慮者案件の相談事例の収集**
 直接的に支援が必要な方からグレーゾーン（支援が必要課判断が難しい）の方も含め、空き家相談状況を把握。
- **現状対応の問題・課題整理**
 既存常設相談窓口に寄せられる住宅確保要配慮者などからの相談内容の整理を実施し、当法人で居住支援を実施する上での問題課題の整理を実施し、仕組み構築に繋げる

■ 居住支援に関する職員研修の実施



■ 空き家を活用した仕組みの検討会の開催

空き家を活用した居住支援の課題

- ① 空き家に関連する課題
 - 改修費用の負担
 - 賃料高・借家保証
 - 中古としての空き家を売却する際の、売却価格やリフォームなどの費用
- ② 住宅確保要配慮者に関連する課題
 - 就業不安リスク
 - 生活安定を必要とするための必要
 - 自治体間の連携や、住宅確保要配慮者の連携
 - 居住先がない状態
- ③ 相談窓口に関連する課題
 - 相談時間の確保
 - 相談員の確保
 - 入居前・契約・入居後の対応

主な成果物

■ 空き家相談窓口相談員に必要な居住支援に関するガイドブックの作成

空き家相談員が住宅確保要配慮者などの対応する際に必要な基本情報の整理や居住支援の流れなどを取りまとめた。

